

## 法人設立 20 周年を迎えるにあたって

理事長 岩澤六夫

平成 2 年（1990 年）障がいのある人たちが中心になって、当時全国で次々に生まれていた、いわゆる“共同作業所”と呼ばれていた無認可の作業所“ふきのとう”を誕生させました。アルミ缶、古紙集めや、花売り、バザーなど試行錯誤を重ねながら何とか 10 年かけて木工製品作りを柱にした通所授産施設として軌道に乗せることが出来ました。利用希望者が増加し、平成 11 年（1999 年）に 2 つ目の作業所「第 2 ふきのとう」を作りました。

●国の予算を出すため、国は施設に法人格の取得を求めはじめ、八王子でも多くの作業所が、社会福祉法人とするか、NPO 法人にするか悩み、“規制がゆるやかだろう”という理由で、殆どが NPO 法人を選びました。

私は、長期に安定した運営のために自前の施設作りを目指していましたから、社会福祉法人を選びました。そして、“小規模授産施設を運営する”という限定付きの社会福祉法人の申請を行い、平成 13 年（2001 年）9 月に法人認可をいただきました。

○早速、利用者スタッフの念願だった施設作りに着手。浅川地区労組の旧梶山合成閉鎖反対の闘いでもらった土地を基に、地元笹野さんの協力を得て入手した土地にふきのとうを建設、平成 15 年（2003 年）。「いつでも自由に使えるショートステイ」という親ごさんたちの強い訴えに応えるため、笹野さんの土地を借り、ころぼっくるを建設、開設平成 18 年（2006 年）しました。

更に、“車イスで自由に動き廻れる施設を”という利用者の望みを実現すべく“安い土地”を探し廻り、元八王子の調整区域を入手。“障がい者施設は要らない”という地域住民に理解をもらうのに時間が必要でしたがようやく平成 21 年（2009 年）に、ひのき工房を建設開設（第 2 ふきのとうが移行）

●社会福祉法人になったため、施設本体の建設費用は殆ど国等の補助金だけでありますが、付随する道路や駐車場スペースなどの必要資金集めには勿論苦労しました。役員は勿論、多くの利用者家族、職員、ボランティアの皆さん、更に、全国の友人、知人、そして地域の支援者の皆さんに多額の御寄附をいただいたおかげで、これらの施設を完成させることが出来、その後の活動を支えています。私達は、これらの支援に対する感謝を忘れてはなりません。

○当初ショートステイと日中一時支援だったころぼっくるは、その後放課後等デイサービスを加えましたが、開設以来 15 年、ずっと赤字の運営です。私共は、当初からご家族に一定の利用者負担をお願いしていますが、児童や利用者本位の運営を続ける以上赤字にならざるを得ない構造だと思います。私共は、成長期の大切な時期にふさわしい支援が御家族の信頼のもとに、維持され、今後も継続出来るよう法人としてもしっかり支えていきたいと思っています。

●ふきのとうやひのき工房の就労継続事業 B 型だけでなく、もっと働いて最低賃金以上で働きたい利用者のため 2 つの事業所を立上げました。その一つは、(株)エフピコ様の八王子 PW 工場を、生産のための機械設備を含め、全て借り受け、毎週の注文に従って、多種の食品容器折詰型プラスチック製弁当箱などを 1 日 4 万個、月 80 万個生産している就労継続支援事業 A、B 型作業所です。(障害福祉サービス事業所ぽぷら八王子) 平成 27 年 (2015 年) (株)エフピコ様が八王子市障害福祉課を通して、委託先を募集、私共、露の会が応募して選ばれた。メンバーやスタッフを揃えるなど準備して同年 12 月に開所し稼働し、現在 5 年半となります。

コロナ渦の中でも、月 20 日の稼働日は、休むことなく生産を続けています。コロナが収まったら、是非見学に来てください。メンバーの皆さんのテキパキした作業態度に目を見張ってもらえると思います。

○もう一つは、八王子市の戸吹不燃物処理センターの手選別作業です。平成 27 年 (2015 年) 八王子市から委託を受け、一般就労の事業所として、現在 12 名の障害のあるメンバーが健常者スタッフと一緒に働いています。

今年度は、東京都のソーシャルファーム制度に申請し、認証しいただき、1 つの独立したソーシャルファーム事業所として、運営を確立していきたいと考えています。

●今年 9 月で、法人開設 20 年になりますが、まだコロナ感染の心配もあり、お客様をお招きしての式典は出来そうにありませんので法人としては、記念誌を発行する予定でおります。

ふきのとう 31 年、ひのき工房 22 年、ころぼっくる 15 年、戸吹不燃 6 年、ぽぷら八王子 5 年と、それぞれが刻んできた歴史も一緒に振り返ってみたいと思います。

今まで、いろいろな形で関わっていただいた皆様にも思い出のひとつでもお寄せいただければ幸いです。どうかよろしくお願い申し上げます。

# 2021年度 法人事業方針

社会福祉法人露の会 法人本部

## 1. 公益事業の組織運営の確立

障がい者の一般就労の場として、市から委託を受けて開設した戸吹不燃物事業所は、今まで障害福祉サービス事業であるひのき工房の一部門として位置付け、管理者も理事長が代行していたため、頻繁に現場に行けず、意志疎通が不十分で組織的な運営が出来ませんでした。

また、昨年、市の指導監査の指導もあり、新年度より、ひのき工房から分離し、一つの公益事業体として独立した事業運営を行うことになりました。

更に、東京都が条例で制度化したソーシャルファームの認証制度に申請し、その理念のもと、障がいを持った人たちを含め、社会的に就労困難な人たちが共に働く場として位置付けます。そして、日々の受託業務の完遂は勿論、メンバー支援、スタッフの業務分担と連携、採用、人事、会計処理等含め全ての事業所運営を法人指導のもとで所長が管理運営できる事業所に育てていきます。

## 2. コロナ感染症対策

昨年1月から世界中に広がり、日本でも多くの死者を出しました。2度目の緊急事態宣言も解除にはなりましたが、いつまた感染が拡大するかわかりません。

露の会各施設・事業所も、今まで利用者メンバーにお願いしてきた感染予防対策を引き続き継続してもらえるよう、職員自身も含め指導と支援を続けていきたいと思えます。毎月の施設長会で状況を確認しながら各施設・事業所とも感染のリスクを減らしていきましょう。

## 3. 法人設立20周年

今年9月で法人設立20年になります。

まだコロナ感染の心配もあるので、お客様を招いての式典は行わず、20周年記念誌を発行致します。法人だけでなく、各施設の開設時からの歴史と振り返り、今後目指す方向などについて、それぞれの施設で議論しながら作成してもらいたいと思えます。法人としては、理事や監事の皆さんの考えも聞いてみたいと思えます。

## 4. 各施設、事業所の指導育成

各施設とも、それぞれの歴史と特徴を持ちながら施設長を中心に利用者支援に努力しています。しかし、解決すべき色々な課題も抱えています。事業検討会議で、それぞれの課題を取り上げては来ましたが、深掘り出来ないまま時間に流されていることもあります。今年度は、その時々課題は今まで通り毎月の事業検討会議で話し合い

ますが、最重要課題については、担当理事が時間を取って一緒に対策を考え重点的に改善を進めていきたいと思えます。

#### 1) ふきのとう

昨年までの検討内容から全体として生活介護中心になっていますから、生活介護一本化の具体的道筋と若手育成を含めた第2次5ケ年計画も一緒に考えます。

#### 2) ころぼっくる

児童保育の一段のレベルアップと最低でも単独黒字化を実現するための第2次5ケ年計画を作ります。

#### 3) ひのき工房

a.今までのイベント出店販売依存体質を変え、積極的に受注生産も開拓し、木工事業売上倍増を目指すよう指導します。

b.新人施設長が事務作業に追われないように担当理事が応援します。

#### 4) とぶきふねん

a.新しい組織で、ワンチームで一体となって事業運営が進められるよう支援します。

b.国の補助金を活用して電池等の選別装置を作り、作業効率・品質の向上を計ります。

#### 5) ぽぷら八王子

a.会計事務を担当するスタッフを採用し、独立した施設運営が出来るようにします。

b.型替要員とメンバーの採用で、施設長が本来の業務が出来るようにします。

### 5. 職員の労働条件の改善

1) 改善の原資を増やすため、国の助成金等漏れのないよう申請していきます。

2) 就労支援事業の売上を増やし、出来るだけ経費も稼ぐ必要性を教育します。

3) 働き方改革で残っている課題、一般就労とA型障がい者の職能給(給号)位置付け、パート職員への賞与月数等を検討していきます。

### 7. 施設環境整備

利用者のため、スタッフが働きやすくなるため、更には、地域住民にとって気持ち良い環境にするためなど、それぞれの施設で「今年はこれだけやる」ことを決めて実施する習慣をつけましょう。

### 8. 地域貢献

1) 八王子市内で、地震、台風、豪雨等で大きな災害亜が発生した場合に、食料供給など、各施設で出来る事はないか検討してもらいます。

2) 子ども食堂の事務局活動、城山小中学校の花壇の草取りなど続けていきます。